

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	アジア史						
担当教員	根岸 智代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	中国とその周縁の歴史を概括する。						
授業の概要	古代から近現代にいたる中国や中華世界の周縁に位置した日本、朝鮮、ベトナムからみた中国像はいかなるものであったのか、また中国の社会と文化を検討する。系列に学ぶ。						
到達目標	中国を中心とした東アジアの歴史を学び、東アジアにおける日本の立場を再認識できる。						
授業計画	第1回 漢字世界の拡大と中華意識 第2回 『日本書紀』が成り立たせる「中国」 第3回 中華世界の変貌 第4回 朝鮮史から見た明清中国 第5回 ベトナム史からみた中国近現代 第6回 中国史にみる周辺化の契機と展開 第7回 ベトナム史と中国史 第8回 東アジア冊封体制と複数の中華 第9回 儒教とその真理性 第10回 都市と農村 第11回 女性史の観点 第12回 華僑 華人 第13回 環境と治水の歴史 第14回 中国史の読み方 第15回 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から、東アジアに関する新聞などに目を通しておくことを希望する。						
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。						
評価基準と評価方法	論述式のテストと小テストで評価を行う。（試験70% 小テスト30%）						
教科書							

参考書	宮崎市定『アジア史概説』中公文庫 濱下武志編『中国の歴史』有斐閣アルマ
-----	--

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	学習心理学						
担当教員	陳 香純						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間を含む動物が、それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎課程を扱う。						
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していることに気付く。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、これら2つの条件づけを中心に、行動のメカニズムを探っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解できる。 ・2つの条件づけの基礎課程を理解できる。 ・一人ひとりの日常的な行動を学習心理学の視点から見つめることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習心理学とは何か 2. 生得的行動 / 様々な行動と学習との関わり 3. 古典的条件づけ1：馴化と鋭敏化 4. 古典的条件づけ2：獲得過程と刺激般化 5. 古典的条件づけ3：消去と自発的回復 6. 古典的条件づけ4：信号機能 7. 古典的条件づけの応用 8. オペラント条件づけ1：効果の法則と参考随伴性 9. オペラント条件づけ2：強化 10. オペラント条件づけ3：消去と弱化 11. オペラント条件づけ4：刺激性制御 12. オペラント条件づけの応用 13. 応用行動分析学1：DVD学習（応用行動分析の現場について） 14. 応用行動分析学2：介入計画および実施方法 15. 定期試験実施とまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを積極的に考える。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点20%（課題や小テストを行う） 定期試験80%						
教科書	随時プリントを配布する。						
参考書	<p>実森正子・中島定彦（2000）. 学習の心理—行動のメカニズムを探る. サイエンス社 中島定彦（2002）. アニマルラーニング—動物のしつけと訓練の科学. ナカニシヤ出版 杉山尚子（2005）. 行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由. 集英社新書 奥田健次（2012）. メリットの法則—行動分析学・実践編. 集英社新書</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養演習I／（幸せに生きるための倫理学）						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	教養を身につけながら、幸せになる方法を考える。						
授業の概要	教養は何のためにあるのでしょうか。なぜ大学で教養を身につける必要があるのでしょうか。それは誰かに知識をひけらかすためではないし、自分の価値を高めるためでもありません。教養は人が幸せになるためにあるのです。この演習では、幸せに生きるための教養を身につける方法を講師とともに学んでいきます。						
到達目標	著名な文学作品や哲学書を読むことで、教養を高め、幸せに生きる方法を習得する。						
授業計画	第1回 夏目漱石『草枕』芸術は人を幸せにするか 第2回 夏目漱石『こころ』自責の念を克服して幸せになる 第3回 太宰治『走れメロス』友情と正義感は人を幸せにするか 第4回 太宰治『人間失格』これを読んで合格人間になる 第5回 三島由紀夫『仮面の告白』ナルシストは幸せになれるか 第6回 三島由紀夫『金閣寺』理想主義者は幸せになれるか 第7回 三島由紀夫『春の雪』究極の恋は人を幸せにするか 第8回 遠藤周作『女の一生』愛に生きることで幸せになれるか 第9回 遠藤周作『沈黙』神への信仰は人を幸せにするか 第10回 三浦綾子『塩狩峠』自己犠牲は人を幸せにするか 第11回 トルストイ『アンナ・カレーニナ』禁じられた恋は人を幸せにするか 第12回 トルストイ『クロイツェル・ソナタ』禁欲主義者は幸せになれるか 第13回 サン・テグジュペリ『星の王子さま』子どもの心で幸せになる 第14回 西田幾多郎『善の研究』座禅と瞑想で幸せになる 第15回 ニーチェ『ツアラトウストラかく語りき』生きる喜びに満たされる						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で使用する本を読む（最低1冊以上）。 分からない言葉を辞書で調べる。						
授業方法	講師の解説のあとで、受講生の考えを文章にしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート：75%（5点×15回＝75点） 期末のレポート：25%						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	授業の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも『聴く能力』が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行： J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽： J. S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生： A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽： W. A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲： W. A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽： L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり： F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ： G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行： F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義： F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向： H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽： P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り： S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	【注意】毎回一つの授業から次の授業までの間に、授業内容を踏まえて、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞し、その楽曲についてのミニ・レポートを提出しなければなりません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・試験50% ・ミニ・レポート50%						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも『聴く能力』が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行：J.S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽：J.S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽：W.A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲：W.A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行：F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽：P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	【注意】毎回一つの授業から次の授業までの間に、授業内容を踏まえて、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞し、その楽曲についてのミニ・レポートを提出しなければなりません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・試験50% ・ミニ・レポート50%						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業へのとりくみ60%（出席状況等15%、課題レポート45%）、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業へのとりくみ60%（出席状況等15%、課題レポート45%）、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	<p>まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。</p>						
到達目標	<p>新聞やニュース等で報道される医療制度や医療技術に関わる問題に関心を持ち、将来において自分や家族にも関係のある問題として考えることができる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度についての概論 2. 再生医療とは？ 3. 細胞分化と発生のしくみ 4. 幹細胞について 5. 医療用具とその材料 6. 人工臓器と組織工学 7. 医薬品、医療用具の認可制度 8. 臓器移植について 9. クローン動物作成技術 10. 生命倫理と社会的受容 11. 難病について 12. 感染症 13. 医療費について 14. 医療に関わるトピックス（報道記事などを参考にして事例を解説） 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席、授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明することができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 I インTRODakShION 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 III 法律の3部門 4. 裁判制度（民事裁判・刑事裁判・行政裁判） 中間まとめと復習テスト1（I～III：45分）</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？ 憲法史・国民主権・憲法改正</p> <p>第8回 V 憲法の内容（1）1. 民主主義（国会と内閣）</p> <p>第9回 V 憲法の内容（1）2. 民主主義（地方自治）</p> <p>第10回 V 憲法の内容（1）3. 民主主義と司法 中間まとめと復習テスト2（IV～V：45分）</p> <p>第11回 VI 憲法の内容（2）： 戦争放棄</p> <p>第12回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 4. 具体例：平等原則，生命身体の自由</p> <p>第16回 VIII 憲法の内容（4）： 統治概論 期末試験（VI～VIII：60分）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回、併せて40%）と期末試験（60%）を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明することができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 III 法律の3部門 4. 裁判制度（民事裁判・刑事裁判・行政裁判）</p> <p>中間まとめと復習テスト1（I～III：45分）</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？ 憲法史・国民主権・憲法改正</p> <p>第8回 V 憲法の内容（1）1. 民主主義（国会と内閣）</p> <p>第9回 V 憲法の内容（1）2. 民主主義（地方自治）</p> <p>第10回 V 憲法の内容（1）3. 民主主義と司法</p> <p>中間まとめと復習テスト2（IV～V：45分）</p> <p>第11回 VI 憲法の内容（2）： 戦争放棄</p> <p>第12回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII 憲法の内容（3）： 人権保障 4. 具体例：平等原則，生命身体の自由</p> <p>第16回 VIII 憲法の内容（4）： 統治概論</p> <p>期末試験（VI～VIII：60分）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回、併せて40%）と期末試験（60%）を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験、調査等で使われる数字を、簡単な統計を使って分かりやすく読み解く。						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とする。授業では、身近な話題を題材に、その評価をデータの代表値や散らばりなどのデータ分析から、相関、推定、検定などの統計操作、および簡単な確率やモデリングなどを利用して統計学的に処理する方法を学ぶ。難しい数学を使わずに統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計学的な扱いを学ぶ。						
到達目標	統計で必要な平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を理解する。相関を検証する χ^2 検定、平均を比較するt検定、分散を分析するF検定、データの相関を調べる相関係数などを理解する。						
授業計画	<p>第1回:Orientation／統計学とはなに？／教科書『統計学がわかる』のハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回:第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布」、「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回:第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回:第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回:第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回:第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回:第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回:第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」；「ここらの数値化?」</p> <p>第11回:『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』のアイスクリーム店の売り上げを例に。 第1章、最高気温と客数の関係を知りたい—「散布図と相関」</p> <p>第12回:第2章、相関の強さを知りたい[1/2]—「相関係数」</p> <p>第13回:第2章、相関の強さを知りたい[2/2]—「相関係数の意味を考える」</p> <p>第14回:第3章、その相関係数に意味はあるのか?—「無相関検定」</p> <p>第15回質疑応答と試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に必要ないが、次のURLで学習することが望ましい。 http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/index.html http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html						
授業方法	パワーポイントを使って分かりやすい授業を行ない、視覚的な理解を助けます。教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。						
評価基準と評価方法	小テスト(40%)、期末試験(60%)の得点から理解度を評価する。欠席時は、原則事前に連絡してください。理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。連絡なしでの欠席が6回を越えると単位認定から除外します。						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる』(技術評論社)						
参考書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』(技術評論社) 小島寛之著『完全独習統計学入門』(ダイヤモンド社) 柳谷晃著『統計解析の基本』(日本能率協会マネジメントセンター) 中西寛子著『統計学の基礎』(多賀出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列																								
科目名	景観論																								
担当教員	中林 浩																								
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0																		
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはられていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところですよ。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																								
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。																								
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観破壊——せっかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは 13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに 14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？ 15景観問題のまとめ+テスト2 <p>15回でない構成にすると</p> <table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>A1 景観・風景とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A2 いろいろな景観</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>世界遺産制度のしくみ</td> <td>テスト1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>景観保全・文化財行政の発展</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>景観法のしくみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>景観問題</td> <td>テスト2</td> </tr> </table>							A	A1 景観・風景とは			A2 いろいろな景観		B	世界遺産制度のしくみ	テスト1	C	景観保全・文化財行政の発展		D	景観法のしくみ		E	景観問題	テスト2
A	A1 景観・風景とは																								
	A2 いろいろな景観																								
B	世界遺産制度のしくみ	テスト1																							
C	景観保全・文化財行政の発展																								
D	景観法のしくみ																								
E	景観問題	テスト2																							
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。																								
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。																								
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。おおむねというのは、そうですね、70%から95%でしょうか。シラバス内クイズ、「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。なぜこんなところでクイズをしているのかな。																								
教科書																									

参考書	授業中に紹介します。新書などでつよく勧めるものがあります。
-----	-------------------------------

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、「経済学的な考え方」について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、経済学の「概念装置」(基礎的なものとはいえ)を通してその本質の理解に一步近づければと考えています。新聞・TV・ネットなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、「経済学的な考え方」にもとづいて分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	経済事象や経済問題をより深く理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、わたしたちにとって「経済」とは？ 2. 経済学的な見方・考え方：さまざまな経済学 3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界 4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学 5. 経済システムと組織①：市場のしくみ 6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状 7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について 8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性 9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策 10. 開放経済のマクロ経済学 11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動 12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動 13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場 14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？ 15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	つね日頃からインターネット・新聞・テレビなどを通して現代の経済の問題や出来事について関心を向け、その内容理解に努めてください(確認テストなどでたずねます)。						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)						
教科書	プリント・資料などを配付						
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』(ナツメ社) 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』(ナツメ社) 若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』(ミネルヴァ書房) 山田鋭夫著『レギュレーション理論』(講談社新書) J.スティグリッツ著『入門経済学』(東洋経済新報社)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心事の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心事の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容)	経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。						
授業方法	極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革・司法改革とその問題 11 歴史認識とナショナリズム 12 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 13 日本と米・欧・露 14 日本とイスラーム諸国 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革・司法改革とその問題 11 歴史認識とナショナリズム 12 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 13 日本と米・欧・露 14 日本とイスラーム諸国 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	井上 重信						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	・情報化社会の進展と社会環境が変化する中でのメディアの役割変化と今日的課題をコミュニケーションの観点から理解する。						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。マーケティングコミュニケーションを中心に具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げることで理解を深めていく。						
到達目標	・メディアやコミュニケーションに関する基本的な用語を理解する。 ・情報化社会におけるメディアの現状や課題について自分の考えや意見を述べることができる。						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 メディアとは何か 第3回 メディアリテラシーについて 第4回 コミュニケーションとは 第5回 マーケティングとメディアの関係 第6回 マーケティングと広告の関係 第7回 広告を取り巻く環境 第8回 広告コミュニケーションの変遷 第9回 広告表現の考え方と表現トレンド 第10回 ソーシャル時代の広告コミュニケーション 第11回 広告表現とコンテンツ① カンヌクリエイティビティフェスティバルの作品より 第12回 広告表現とコンテンツ② アジアの広告祭の作品より 第13回 近年の政治やジャーナリズムとメディア 第14回 インターネットとトリプルメディア（次世代メディアの可能性） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	・メディアやコミュニケーションに対して自分なりの問題意識を養うため、新聞やテレビのニュース、身の回りの広告を見ること。						
授業方法	・講義形式で授業を進める。毎回パワーポイントによるスライドを使用。						
評価基準と評価方法	・試験（60点） ・平常点等（40点） 配点内訳：授業への積極的参加度（10点）と課題（30点）						
教科書							
参考書	マーケティング理論の焦点 堀越比呂志・松尾洋治編著（中央経済社 2017年刊）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	井上 重信						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	・情報化社会の進展と社会環境が変化する中でのメディアの役割変化と今日的課題をコミュニケーションの観点から理解する。						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。マーケティングコミュニケーションを中心に具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げることで理解を深めていく。						
到達目標	・メディアやコミュニケーションに関する基本的な用語を理解する。 ・情報化社会におけるメディアの現状や課題について自分の考えや意見を述べることができる。						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 メディアとは何か 第3回 メディアリテラシーについて 第4回 コミュニケーションとは 第5回 マーケティングとメディアの関係 第6回 マーケティングと広告の関係 第7回 広告を取り巻く環境 第8回 広告コミュニケーションの変遷 第9回 広告表現の考え方と表現トレンド 第10回 ソーシャル時代の広告コミュニケーション 第11回 広告表現とコンテンツ① カンヌクリエイティビティフェスティバルの作品より 第12回 広告表現とコンテンツ② アジアの広告祭の作品より 第13回 近年の政治やジャーナリズムとメディア 第14回 インターネットとトリプルメディア（次世代メディアの可能性） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	・メディアやコミュニケーションに対して自分なりの問題意識を養うため、新聞やテレビのニュース、身の回りの広告を見ること。						
授業方法	・講義形式で授業を進める。毎回パワーポイントによるスライドを使用。						
評価基準と評価方法	・試験（60点） ・平常点等（40点） 配点内訳：授業への積極的参加度（10点）と課題（30点）						
教科書							
参考書	マーケティング理論の焦点 堀越比呂志・松尾洋治編著（中央経済社 2017年刊）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養I／（哲学から考える世界と人間）						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からどのようにできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学です。この授業では、古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ、哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想内容について学びます。						
授業の概要	西洋において哲学的思考が誕生した古代ギリシア、そして西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀までに登場した哲学者のなかから、とくに重要な人物の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容をできるだけわかりやすく講義します。授業では、適宜、授業のテーマと関連する現代的なトピックを扱った参考資料を配布して、そのことからの哲学的意味を明らかにして、われわれが生きているこの現代における哲学的思考の意義と必要性を解説します。						
到達目標	哲学を学ぶことは、昔の人名や書物の名前を記憶することではありません。哲学は、私たち自身が生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点に立ち戻って、事柄の根源的な意味を洞察しようとする学問です。私たちが直面する問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まり論理的・反省的にその問題自体の意味を深く考えるときに、哲学という営みが始まります。日常においてそれを当たり前と感じていることを考え直し、私たちが生きている世界と自分自身の在り方について、全体的かつ理論的な把握ができるような考え方を身につけられるようにします。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 プラトンのイデア論 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 09 デカルトの哲学2－心身二元論 10 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 11 ヒュームの経験論－因果律の否定 12 カントの哲学－コペルニクスの転回 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜学 14 ニーチェの思想2－貴族道徳と奴隷道徳 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前の予習は必要ありません。授業の後に自分でもう一度テキストを開いて、授業で扱った箇所を読み返して、授業で解説されたことの内容を確認し、理解を深めるようにしましょう。哲学書の原典を独力で読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識をもとにして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関する解説書を自分の手にとってゆっくりでもよいですから読むことによって、授業の内容の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。毎回必ずテキストを持参してください。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点（授業内提出物と授業態度）の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012 ISBN:978-4121021878）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養II／（進化から考える人間らしさ）						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしさを進化から考える						
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	人間の進化について基本的な知識を持ち、人間の身体や心の働きを進化論的視点から説明できるようになる。現代社会とそこで生きる人間の問題を進化論的視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 人間の悩みを人類進化から考える 第2回 人間の祖先はサルって本当？ 第3回 人類進化の始まり 第4回 “原始人”て、どんな人？ 第5回 ホモ・サピエンス 第6回 ホモ・サピエンスとその多様性 第7回 人間が見る世界：人間は他の動物と同じ世界を見ているのか 第8回 人間が聞く世界：人間は他の動物と同じ音を聞いているのか 第9回 道具を使う 第10回 人間は真似をする動物である 第11回 協力と援助 第12回 協力と援助の続きと達成度確認試験 第13回 なぜ感情があるのか 第14回 人間らしい感情 第15回 現代社会と人間 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50％と試験50％						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	嶋矢 貴之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員裁判と日本の刑事法入門						
授業の概要	2009年5月から、裁判員裁判が導入され、重要な刑事裁判に一般市民（みなさんも含まれます）が参加することとなりました。本講義は、これに関わるための基礎知識、具体的には、裁判員裁判のやり方、わが国の犯罪状況、わが国の刑法等に関するおおよその理解を得て、社会生活上・学問上、いずれにも有益な基礎教養の習得を目指すものです。日々起こる犯罪について、色々な角度から考えてみましょう。						
到達目標	今後裁判員に選ばれて参加するための基礎的な知識を得るのみでなく、日本の犯罪に関する事実や、刑事法に関する知識を獲得し、犯罪報道や社会問題をよりよく理解し、考えられるようになることを目指します。						
授業計画	<p>1 法律とはどのようなものか？－ガイダンス 2 裁判員になるまで－いつ、誰が呼ばれて、どこに行くの？ 3 裁判員裁判の仕組み 4 裁判官、検察官、弁護士、警察官の仕事 5 刑法の基本原則－人を処罰するためのルール 6 日本の犯罪状況はどうなってる？ 7 少年と犯罪－子供だから、か、子供でも、か？ 8 精神障害と犯罪－心神喪失って何？ 9 交通事故と犯罪－わざとじゃなくても～過失犯について 10 犯罪死亡被害と損害賠償－命の代償？ 11 ストーカー対策と犯罪 12 日本の刑罰（1）－刑罰はどんなことをするの？ 13 日本の刑罰（2）－死刑について 14 隣の犯罪者？－刑務所を出た後の犯罪者 15 まとめと試験</p> <p>* 授業において関心のあるニュース・事件を報告してもらいそれを授業の素材にするため、テーマの順番や内容を適宜入れ替えることがあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：法律に関する基本的知識は不要ですが、各回適宜指示する文献や報道に目を通してください。 授業後学習：授業後に復習して、習った範囲で法律に関する基本的知識を定着させるとともに、法律文献や裁判に関する報道に積極的に目を通すようにしてください。</p>						
授業方法	講義形式で行うことを予定していますが、参加人数によっては興味のある犯罪や事件に関する報告を求め・質問の受付を行いながら、授業を行います。犯罪に関するニュースを見て、わからないところ、疑問に思ったところを質問してください。裁判員に関する映像資料の視聴とそのレポート提出も予定しています。						
評価基準と評価方法	期末試験50%、平常点（レポート2～3回）50%による。到達目標の達成状況をレポートや期末試験で測ることで評価をします。						
教科書	なし。 ただし、添付ファイルの条文をプリントアウトして、毎回必ず持参してください。						
参考書	松井茂記ほか著・はじめての法律学〔第4版〕（有斐閣、2014）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養V／地域研究I／（現代の東アジア）						
担当教員	根岸 智代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	アジア社会の歴史と現状及び日本との関係を考察する。						
授業の概要	中国をはじめとするアジア社会の現状を歴史的視点などから考察する。アジアとは何か、どのように観るべきかという問題について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得できる。						
授業計画	第1回 中国 中国概観 第2回 中国の近現代 中華民国期から中華人民共和国へ 第3回 現代中国 1950年代～1970年代の中国 第4回 現代中国 改革開放初期の中国 第5回 現代中国 天安門事件以後の中国 第6回 台湾 (1) 台湾近現代史 第7回 台湾 (2) 戦後台湾の発展 第8回 香港 植民地期の香港の歴史と、中国への返還 第9回 香港・マカオ マカオの歴史 第10回 シンガポール (1) シンガポールの歴史 第11回 シンガポール (2) シンガポールの現代 第12回 韓国 (1) 戦後韓国の発展と日韓関係 第13回 韓国 (2) 第14回 その他のアジアの国 第15回 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から新聞やテレビ等で、東アジア及びアジア全般の情報を収集するよう希望する。						
授業方法	講義形式で行う。映像や画像を用いて説明し、授業内容に沿ったレジュメを用意する。						
評価基準と評価方法	論述式の試験（70%）と小テスト（30%）で評価する。						
教科書							
参考書	授業中にプリント等で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できるようになる。						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを見つけたら、目を通すようにする。 1日10分以上は、そのような時間を持つことをお勧めします。						
授業方法	講義形式で行いますが、毎回小レポートを書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポート2点×15回） 期末試験：70点						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	小林 北斗						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的考察						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる。 自分や周囲に対するメンタルヘルスについて考えることができる。 						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 ストレスに関する基本的な考え方 第3回 いろいろな精神疾患①（統合失調症、うつ病） 第4回 いろいろな精神疾患②（不安障害、強迫性障害、身体表現性障害、摂食障害） 第5回 いろいろな精神疾患③（発達障害、人格障害） 第6回 いろいろな精神疾患④（アルコール・薬物依存） 第7回 心理テストの紹介①（知能検査、質問紙法） 第8回 心理テストの紹介②（投映法） 第9回 心理療法の紹介①（精神分析、来談者中心療法） 第10回 心理療法の紹介②（行動療法、認知行動療法） 第11回 心理療法の紹介③（家族療法、ブリーフセラピー） 第12回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介① 第13回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介② 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 講義の理解度の確認 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、テレビなどで取り上げられているメンタルヘルスや講義で話された内容などを積極的に調べてほしい。						
授業方法	適宜、資料を提示し、その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらおう。						
評価基準と評価方法	試験60%、各回提出のリアクションペーパー（受講コメント、質問）による平常点40%						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	連 興檜						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の内容 ・「現代社会」と私たちの関係 						
授業の概要	<p>私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということでも有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度・テーマから幅広く知ること、動きの速さの根底を見極めることを目的とします。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが置かれている「現代社会」を見る目を養う。 ・「この社会が他の形ではありえないのか」という「別の可能性」を考える力も養う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容の紹介 2. 消費社会——私たちは何を買っているのか 3. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾 4. リスク社会——リスクを背負うのは誰か 5. 監視社会——誰が誰を監視するのか 6. 環境管理社会——私達が知らないうちに方向づけられる 7. 格差社会——機会の格差と結果の格差 8. グローバル化——「豊かさ」を成り立たせているもの 9. 恋愛と結婚——変わり行くそのかたち 10. 家族——現代の家族はどこへ向かうか 11. 学校——何が行われている場所なのか 12. 仕事——自己実現は可能か 13. ジェンダー——男／女の境界を越えて 14. 幸福——私たちにとっての幸せ／不幸せのかたちとは 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に予備知識は必要ありません。 ・授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。 						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の小感想の内容（30%） ・期末テストの結果（70%） 						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。必要がある場合は授業中に指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	連 興 檜						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の内容 ・「現代社会」と私たちの関係 						
授業の概要	<p>私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということでも有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度・テーマから幅広く知ること、動きの速さの根底を見極めることを目的とします。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが置かれている「現代社会」を見る目を養う。 ・「この社会が他の形ではありえないのか」という「別の可能性」を考える力も養う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容の紹介 2. 消費社会——私たちは何を買っているのか 3. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾 4. リスク社会——リスクを背負うのは誰か 5. 監視社会——誰が誰を監視するのか 6. 環境管理社会——私達が知らないうちに方向づけられる 7. 格差社会——機会の格差と結果の格差 8. グローバル化——「豊かさ」を成り立たせているもの 9. 恋愛と結婚——変わり行くそのかたち 10. 家族——現代の家族はどこへ向かうか 11. 学校——何が行われている場所なのか 12. 仕事——自己実現は可能か 13. ジェンダー——男／女の境界を越えて 14. 幸福——私たちにとっての幸せ／不幸せのかたちとは 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に予備知識は必要ありません。 ・授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。 						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の小感想の内容（30%） ・期末テストの結果（70%） 						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。必要がある場合は授業中に指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会心理学						
担当教員	荻原 祐二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学概論						
授業の概要	「一人で仕事をしているときは怠けているが、他の人がそばにいと張り切って仕事をする」など、人の行動は「他者」や「社会」と個人の相互作用により変化する。社会心理学は、その背景にはどのような「ところ」の仕組みがあるか研究する学問である。本講義では、人の行動が「他者」や「社会」によってどのように変化するのか、またその背景にはどのような「ところ」の働きがあると考えられているのか、ということについて個人・対人・集団の3つのレベルに分けて解説する。						
到達目標	①社会心理学の基礎的な知見を説明することができるようになる。 ②自分や他者の行動を、社会心理学的な視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：社会心理学とはどのような学問か 第2回 個人①：社会的認知 第3回 個人②：感情 第4回 個人③：自己 第5回 対人①：他者評価 第6回 対人②：コミュニケーション 第7回 対人③：態度 第8回 対人④：援助行動と攻撃行動 第9回 集団①：集団と個人 第10回 集団②：ステレオタイプ・偏見 第11回 集団③：集団間葛藤 第12回 集団④：文化 第13回 Ex.：進化心理学 第14回 Ex.：社会神経科学 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。						
授業方法	講義を中心に、ときに心理学調査を体験していただきます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	ミニレポート30%・試験70%とします。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学（New Liberal Arts Selection）」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 北村 英哉・内田 由紀子（編）「社会心理学概論」ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1059-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化をとらえつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の一生と家族 2. 青年期の自立と家族 3. 家族の概念と定義 4. 少子化とその原因分析 5. 子どもの発達と親の役割 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— ゲストスピーカー招聘 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 共生社会と福祉（高齢者福祉・児童福祉） 12. 家族とグローバル化 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。地域と家族との関係について、近隣コミュニティにおける家族の役割を調べ報告する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（授業中の小レポート60% 期末試験 40%）						
教科書	よくわかる現代家族【改訂版】神原文子、杉井順子、竹田美知						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活II (神戸論)						
担当教員	江 弘毅						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちとその特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	<p>(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。</p> <p>(2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。</p> <p>(3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか</p> <p>第2回 神戸と開港</p> <p>第3回 外国人居留地の歴史と現在</p> <p>第4回 神戸の外国人とコミュニティー</p> <p>第5回 神戸の近代建築</p> <p>第6回 神戸の洋食～外国料理</p> <p>第7回 神戸の中国料理と南京町</p> <p>第8回 神戸の洋菓子、パン</p> <p>第9回 神戸の観光 (ゲスト・スピーカー招聘予定)</p> <p>第10回 神戸の地勢、自然と公園</p> <p>第11回 ファッション都市・神戸</p> <p>第12回 神戸と阪神間モダニズム</p> <p>第13回 阪神淡路大震災と神戸</p> <p>第14回 メディアのなかの神戸</p> <p>第15回 神戸流生活術</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること (1時間)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること (1時間)。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答 (コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
教科書							
参考書	<p>『古地図で見る神戸』 大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035</p> <p>『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254</p> <p>『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481</p> <p>『神戸の中国料理』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉における「快い生活」とは何か、を身近な生活のテーマとその制度を学び、考える。						
授業の概要	社会福祉とは、障がい者と高齢者だけの社会福祉ではなく全ての人を対象とする。日常生活の身近なテーマから社会福祉とその制度について学び、「人間とは何か」、「どう生きていくか」、そして「幸せとは何か」について社会福祉の基本的な考えと制度を視覚教材や一部アメリカについても学ぶことで、「快い生活」について考える。						
到達目標	(1) グループワークや話し合いを通して、他者の考えを知ることで自分の価値観や物の見方を知ることができる。 (2) 社会福祉の基本的な知識や制度を知ることができる。 (3) 自分の快い生活についての考えを他者に説明することができる。 (4) 受講前と比較して、自分の考え、価値観について述べるができる。						
授業計画	第1回 履修上の注意についての説明。社会福祉とは何か（社会福祉の概念） 第2回 第1回の復習。社会福祉とは何か（社会保障、快い生活とは何か）、ボランティア活動 第3回 障がい者と制度（各障がい者の手帳種類、ジョブ・コーチ） 第4回 障がい者と制度（身体障害者補助犬法） 第5回 ボランティア活動の課題発表と作業（発表と話し合い、事前学習提出と事後学習の課題説明） 第6回 出産（不妊、10代の性と生、誕生死） 第7回 出産と制度（里親制度、特別養子縁組）、高齢者の生活と年金（2030年問題とは） 第8回 小テスト第1回、高齢者の生活と年金（人口と年金、基本の年金制度） 第9回 高齢者と介護と制度（介護、日本の高齢者施設の紹介）、グループワーク1（事前学習の発表） 第10回 グループワーク2（ボランティア活動企画と企画作成、企画作成用紙提出） 第11回 高齢者と介護と制度（アメリカの高齢者施設紹介、介護保険制度、徘徊とは、徘徊の目的は何か） 第12回 雇用（雇用、就職氷河期、新卒応援ハローワーク）、社会福祉の歴史（第2次世界大戦後） 第13回 社会福祉の歴史（高度成長期、平成の社会福祉） 第14回 生活保護制度、グループワーク3（話し合い、話し合い内容作成と提出） 第15回 小テスト第2回、グループワーク4（話し合いと作業）、事後学習、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) 授業内で配布される「学習シート」の復習（小テスト、グループワーク、レポート等のために）をする。 (2) グループワークのための調べ物、事前・事後学習用紙の課題に取り組む（提出）。 (3) 視覚教材を観た後の質問用紙やメモの提出のために記述してくる。 (4) 最終レポート（書くための「調べる」という作業はない。講義内容と学習シートを使用）作成。						
授業方法	(1) 講義型授業と双方向授業 (2) 視覚教材（主にDVDと写真、本） (3) グループワーク（話し合い、発表、ボランティア活動の仮定企画作成等）						
評価基準と評価方法	小テスト（2回）40%、平常点（グループワークとそれに関する話し合い、調べ物、提出物と発表。視覚教材に関する提出物、授業内の提出物を含む）40%、最終レポート20%						
教科書	私用しない。授業中に配布する「学習シート」というプリント配布予定。						
参考書	(1) 「その子をください」 鮫島浩二、アスペクト (2) 「ほしになったぼくのおとうと」 鮫島浩二、アスペクト (3) 「平穏死 10の条件」 長尾和宏、ブックマン社						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生涯発達心理学A						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では胎児期・乳児期・幼児期・児童期を扱う。</p> <p>個体の発達的変化のイメージを描き、各発達段階における理論と自分自身の経験とをすり合わせることにより、人間発達に関する一層の理解を深めてもらいたい。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、子どもの発達について、各発達段階の特徴を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは～胎児期の発達（性の分化） 2. 発達初期におけるヒトの特殊性 3. 発達の一般的傾向 4. 発達課題・発達段階 小テスト1（範囲：1～4） 5. アヴェロンの野生児（映画鑑賞） 6. 野生児の記録 7. 遺伝と環境 8. 前半の補足とまとめ 小テスト2（範囲：5～8） 9. 愛着理論と親子関係 10. 愛着行動と測定 11. 知覚の発達 小テスト3（範囲：9～11） 12. 感情の発達 13. 思考の発達 14. 後半の補足とまとめ 小テスト4（範囲：12～14） 15. 全体のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。毎回の授業で復習チェック、もしくは小テスト（計4回）を実施しますので、各回の講義の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト55%，小テスト30%，授業態度15%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生涯発達心理学B						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では青年期以降を扱う。</p> <p>前半では「自分を知る」をテーマとして、自己への問い直し、職業選択、後半では「家族の一員としての自分の位置づけ」をテーマとして、恋愛、結婚などに伴う男女の関係や親子関係、家族の再構成などのさまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、青年期以降の人間の発達について、各発達段階の特徴と現代社会が抱える問題点を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション～世代を超えた発達の影響 2. 身体の認知 3. 性役割観 4. アイデンティティの形成 ―エリクソンの発達理論 5. パーソナリティの発達・小テスト1（範囲：1～4） 6. パーソナリティの測定 7. 自己の統合 ―現実自己と理想自己 8. ストレスとその対処 9. 前半の補足とまとめ・小テスト2（範囲：5～9） 10. 配偶者選択 11. 子どもを持つという選択 12. 少子化問題の現状 13. 少子高齢化社会におけるライフプラン 14. 後半の補足とまとめ・小テスト3（範囲：10～14） 15. 全体のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。毎回の授業で復習チェック、もしくは小テスト（計3回）実施しますので、各回の講義の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト55%、小テスト30%、授業態度15%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を取ること、とは何か？）						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、エネルギー代謝、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考える習慣を身につける。日常生活での健康維持にも関係のある問題として自ら考えることができる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物の消化と吸収のしくみ 2. 栄養分の循環と老廃物の排泄 3. 蛋白質の代謝 4. 糖質の代謝 5. 脂質の代謝 6. 薬物や異物の代謝 7. ミネラルの代謝 8. ビタミンの役割 9. ホルモン・自律神経の働きと恒常性 10. 食欲の調節機構 11. エネルギー代謝 12. 健康食品について 13. 生活習慣病 14. 飲酒と喫煙 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される食糧問題、農業問題、食品安全性、等についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席、授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学（池田彩子、鈴木恵美子、脊山洋右、野口忠、藤原洋子 編、新スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1669-6）。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ファイナルテスト（40%）、予習・復習レポート（40%）、リアクションシート（20%）を総合して評価します。						
教科書	自ら実感する心理学 土井伊都子編 保育出版社						
参考書	特に無し						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ファイナルテスト（40%）、予習・復習レポート（40%）、リアクションシート（20%）を総合して評価します。						
教科書	自ら実感する心理学 土井伊都子編 保育出版社						
参考書	特に無し						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの基礎						
授業の概要	心理学は「こころ」を研究する科学である。この授業では、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、性格心理学、臨床心理学などの様々な研究領域について、その基礎的な内容を幅広く紹介する。さらには健全で幸福な日常生活に役立つ様々な心理学的知見を提供する。毎回の授業では、日常生活に役立つテーマを選択し、様々な映像教材やワーク形式の体験型学習を取り入れている。この授業によって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心が持てるようになり、よりよく生きるためのヒントを得て欲しい。						
到達目標	心についての基礎知識が身につく。 人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。 よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～あなたのパーソナルカラーは？～ 第4講 記憶1 ～記憶力UPのコツ～ 第5講 記憶2 ～人はなぜ忘れるのか～ 第6講 学習 ～メリットの法則～ 第7講 性格1 ～エゴグラムによる自分探し～ 第8講 性格2 ～バウムテストによる自分探し～ 第9講 心の健康1 ～ストレス対処法～ 第10講 心の健康2 ～『ツレうつ。』で学ぼううつ病～ 第11講 心の健康3 ～認知療法～ 第12講 人間関係1 ～アサーション～ 第13講 人間関係2 ～恋愛の心理学～ 第14講 おわりに 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	授業参加態度30%、試験70%						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	中原 朝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーは、私たちが当たり前と思ってきた性に関する様々な思い込みを問い直す重要な概念である。「性」が社会的に構築されたものであるということを学問領域に持ち込む契機となったウーマン・リブの活動、そして女性学の成果を踏まえ、「性」をめぐる様々な社会問題、中でも家族や労働に関するジェンダーを中心的に取り上げ、それにまつわる論争や政策の変遷を学修する。						
授業の概要	本授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられてきた性差）を、その社会がどのように認識し、意味づけているかを明らかにし、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているのかを見抜く視点を共有する。中でも、家族や労働におけるジェンダーを中心的に取り上げ、日本の家族および労働市場に、ジェンダーがどのように組み込まれているかを、家族政策および労働政策、職場の雇用管理を中心に検討する。						
到達目標	性をめぐる問題が、社会的に構築されたものであるということを理解できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価の方法等） 第2回 フェミニズムの思想 第3回 ウーマン・リブの活動 第4回 母性保護論争 第5回 主婦論争 第6回 家事労働論争 第7回 ケア労働 第8回 感情労働 第9回 非正規労働とジェンダー 第10回 家計とジェンダー 第11回 貧困・社会的排除とジェンダー（1） （貧困の概念：言説：計測方法） 第12回 貧困・社会的排除とジェンダー（2） （貧困の実態） 第13回 災害とジェンダー 第14回 ジェンダー問題についてのディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマ毎に授業でとりあげる文献を示すので、読んでおくのが望ましい。						
授業方法	資料を用いた講義形式の授業とともに、ビデオ等の視聴も行う。						
評価基準と評価方法	課題提出（30%）、期末テスト（60%）、平常点（10%）から、判断する。 平常点は、授業での質問、コメントシートへの書き込み等、授業への積極的な取り組みから評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と健康						
担当教員	西川 央江						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性が生涯を通じて心身ともに健康に過ごすことについて						
授業の概要	健やかに生きるという事は、すべての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することである。特に女性は妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、心身の両面から配慮が必要になってくる。本授業では、基礎知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康、さらには次世代の健康な育成について様々な観点から考える。学んだ正しい情報・知識を基に、女性としての自身の健康をより向上させる実際の能力を身に付けることを学ぶ。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解できる 2. 女性の健康の保持増進に必要な知識情報を集め、その内容を理解できる 3. 自分の健康課題を見つけそれに対してそれに対して具体的な改善方法を実践できる						
授業計画	第1回 女性の健康の概念と基本理論（人間の性を学ぶ視点 ジェンダー セクシャリティー） 第2回 女性の健康の概念と基本理論（リプロダクティブ・ヘルス/ライフ） 第3回 生涯を通じた女性の健康（思春期までの成長発達） 第4回 生涯を通じた女性の健康（思春期・青年期の成長発達 ホルモンと性差） 第5回 生涯を通じた女性の健康（月経 月経困難症 喫煙薬物問題） 第6回 生涯を通じた女性の健康（思春期に起きやすい心身症） 第7回 生涯を通じた女性の健康（性感染症とその予防） 第8回 生涯を通じた女性の健康（生殖をめぐる科学と人間関係 妊娠 出産） 第9回 生涯を通じた女性の健康（生殖をめぐる科学と人間関係 避妊 中絶 不妊） 第10回 生涯を通じた女性の健康（子宮がん 乳がん がん検診） 第11回 生涯を通じた女性の健康（子育て 虐待） 第12回 生涯を通じた女性の健康（人権と性 ドメスティック・バイオレンス ストーカー防止法） 第13回 生涯を通じた女性の健康（閉経前後のホルモン スマートライフプロジェクトと骨関節の健康） 第14回 生涯を通じた女性の健康（マイノリティーの性） 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習 講義内で案内する内容について、新聞・書籍・関係雑誌から情報を得ておくこと 授業後学習 講義内容を振り返り、自分の健康状態を観察しより健康になるように改善点を見つけ実践すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験40%、 課題レポート30%、 各回提出のリアクションペーパー（授業コメント・質問）30%						
教科書	プリント配布						
参考書	「セクソロジー・ノート」村瀬幸治編著 子ども未来社 ISBN978-4-86412-075-3						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示することができるようになる。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前配布プリントを読んでもらうこと。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
教科書	なし。						
参考書	・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法」（有斐閣、2013年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示することができるようになる。						
授業計画	<p>以下の要領で授業を実施する。</p> <p>第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前配布プリントを読んでくること。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
教科書	なし。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法」（有斐閣、2013年） 						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性とメディア／女性論II						
担当教員	巽 真理子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアにおける女性や男性のイメージとジェンダー規範						
授業の概要	複雑化する現代社会においては、人と社会のかかわりや時代の変化を敏感に察知し、多様な課題にも目配りのできる資質や能力がますます求められている。本講義では、そのなかでも、ジェンダーに着目する。メディア（新聞、ニュース、雑誌、広告など）が女性や男性のイメージをどのように描いてきたか検証し、その裏にはどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。また、アニメやドラマ、広告などの具体的な映像などを鑑賞しながら考察する。						
到達目標	さまざまなメディアにおける女性や男性のイメージを考察し、それを取り巻くジェンダー規範を認識することにより、自分らしい生き方を選択していくための知識や視点を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メディアとジェンダーをどう学ぶか：メディアリテラシーという視点 第3回 ミニコミとジェンダー 第4回 マスメディアとジェンダー（1）新聞・テレビ 第5回 マスメディアとジェンダー（2）CM 第6回 雑誌とジェンダー（1）雑誌のしくみ 第7回 雑誌とジェンダー（2）育児雑誌 第8回 雑誌とジェンダー（3）ファッション誌 第9回 雑誌とジェンダー（4）教育誌 第10回 映画とジェンダー（1）描かれる家族像 第11回 映画とジェンダー（2）母親と子育て 第12回 映画とジェンダー（3）母親と仕事 第13回 アニメ番組とジェンダー（1）描かれる家族像 第14回 アニメ番組とジェンダー（2）メディアミックス戦略 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	関連する報道等を積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	期末テスト（60％）・リアクションペーパーなどの平常点（40％）						
教科書	特になし						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストのなかの指定された章を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポートや授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストのなかの指定された章を読んでみてください。図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポートや授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論および研究の紹介						
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解する。また、各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学ぶ。自身で研究計画を立てその解法を導きだせるようになる。						
授業計画	<p>第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1 自己概念） 第7回目：パーソナリティと発達（2 社会とのかかわり） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1 方法） 第11回目：パーソナリティの測定法（2 信頼性・妥当性） 第12回目：実験（研究）計画法（1 紹介） 第13回目：実験（研究）計画法（2 解説・討論） 第14回目：試験及び復習 第15回目：まとめ</p> <p>#進度は適宜調整するため、内容が前後することもあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします。原則、配布は行わないため、授業前にダウンロードしておいてください。URLは http://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/ です。パスワードは初回に紹介します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験のみ						
教科書	なし						
参考書	講義中に紹介						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生活システムII (流通・マーケティング)						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。 ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを知ることができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティング論のなりたち 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント 第8回 チャンネルのマネジメント 第9回 サプライチェーンのマネジメント 第10回 営業のマネジメント 第11回 顧客関係のマネジメント 第12回 顧客理解のマネジメント（ゲストスピーカー） 第13回 ブランド構築のマネジメント 第14回 ブランド組織のマネジメント 第15回 企業の社会責任（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容）	①流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください） ②新聞・雑誌必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
教科書	石井淳蔵＋神戸マーケティングテキスト編集委員会著、『1からのマーケティング論』、碩学舎						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	<p>目的： 青年期にかかわるさまざまな問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解していくことを目的とします。</p> <p>概要： 就労や恋愛など青年期にかかわる課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。</p>						
到達目標	<p>青年期にかかわる諸問題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。</p> <p>授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 大人？子ども？ ～生涯発達における青年期～</p> <p>第2回 家を出たい？出たくない？ ～青年期の親子関係～</p> <p>第3回 働くとは？ ～青年期の就活・就職(1)～</p> <p>第4回 就活不安の正体 ～青年期の就活・就職(2)～</p> <p>第5回 楽しく働くとは？ ～青年期の就活・就職(3)～</p> <p>第6回 働かないとダメですか？ ～NEET・引きこもりの心理(1)～</p> <p>第7回 働かない人の意義 ～NEET・引きこもりの心理(2)～</p> <p>第8回 愛するとは？ ～青年期の恋愛・結婚(1)～</p> <p>第9回 結婚したい？したくない？ ～青年期の恋愛・結婚(2)～</p> <p>第10回 愛する病 ～DV・ストーカーの心理～</p> <p>第11回 うつ・自殺 ～青年期の精神疾患(1)～</p> <p>第12回 統合失調症 ～青年期の精神疾患(2)～</p> <p>第13回 心理療法という繋がり ～青年期の精神疾患(3)～</p> <p>第14回 まとめと試験</p> <p>第15回 課題発表</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習： 青年期の課題や臨床心理学に関する本を読み自分なりの理解や疑問をもって授業に臨んでください。</p> <p>授業後学習： 授業内で紹介する参考書を読みさらに理解を深め新たな疑問をみつけてください。身近な素材を授業で得た理解と結びつけ「素材カード」にまとめ提出してください(任意、随時受付)。</p>						
授業方法	講義、演習						
評価基準と評価方法	<p>平常点(授業レポート、素材カード) 50%</p> <p>期末試験 30%</p> <p>課題(授業内ワークのまとめ、課題発表、レポートのうち1つ以上) 20%</p> <p>課題の選択内容により、学外見学・研修を行うことがあります。</p>						
教科書	プリントを配布します						
参考書	授業内で紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生物学入門／くらしと科学I						
担当教員	吉野 健一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中の身近なトピックスから生物学を学ぶ						
授業の概要	人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学の知識は不可欠です。iPS細胞、クローン生物、BSE（牛海綿状脳症）、遺伝子組み換え食品、ワクチン、新型インフルエンザウイルスなど、報道やテレビ番組でよく見聞きする生物学や医学に関する身近なトピックスを取り上げて科学的に解説します。さらに、特に女性として健康で幸福な生活を送るために有用な生物学的・医学的知見を紹介しながら、より良い生活を送るために科学的な知識や客観的な思考力が大切であることを学びます。						
到達目標	人間も生物の一種であり、われわれ人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学的な知識は不可欠です。女性として健康で幸福な生活を送ることができるための一助となる基礎的な生物学の知識を習得し、その理解を深めることを目標とします。また生物学と医学とは深い関連があり、生物学が人類の福祉に大きく貢献していることを理解し、健康に関する身近な話題を生物学的な視点から考えることができるようになることを目標とします。						
授業計画	第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か 第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴 第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう 第4回：新しい感染症を理解しよう 第5回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう 第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か 第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ 第8回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史 第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう 第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう 第11回：性決定システムの多様性を理解しよう 第12回：ヒトの初期発生を理解しよう 第13回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか 第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点 第15回：クローンとiPS細胞を理解しよう						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画の内容に関係した報道に日頃から関心をもって接してください。 授業後学習：学んだ内容に関係した報道に関心を持ち続け、理解を深める努力を続けてください。						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出する小レポート（ノート形式）と受講態度75% 期末レポート25%。 単位の取得には10回以上の出席と期末レポートの提出が必須。 講義ごとに提出する小レポートが0点の場合は欠席扱いとします。						
教科書	なし。ノート形式のプリントを毎回配布します。						
参考書	『これだけはおさえたい生命科学 身近な話題から学ぶ』武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1 『生物学の基礎知識』都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8 『初歩からの生物学』鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞「境界を生きる取材班」著、毎日新聞 ISBN978-4-620-321783						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	西洋古典入門IIA（ローマの歴史と文学）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ローマの歴史と文学						
授業の概要	西洋古典学（Classics）とは、古代ギリシア人およびローマ人が創造し、二千年以上にわたって西欧の歴史と文化の規範ないし基盤となってきた学問や文化を研究するもので、ギリシア語の古典文献を主とするギリシア研究とラテン語の古典文献を主とするローマ研究に分かれる。この「西洋古典入門IIA」では古代ローマの歴史と文学の骨子を学ぶ。						
到達目標	古代ローマの歴史と文学について基礎的な知識をもつとともに、歴史や文学を学び楽しむための読解の技能を身につける。						
授業計画	第1回 すべての道はローマへ通ず。古代ローマのイメージ 第2回 ローマは1日にしてならず。ローマ史概観(1)：カエサルとクレオパトラ 第3回 ローマ史概観(2)：ローマの建国神話—アエネーアースとロムルス 第4回 ローマ史概観(3)：ポエニ戦争、カルタゴとの闘争、地中海の覇者 第5回 ローマ史概観(4)：内乱の前一世紀、キケロとカエサル 第6回 ローマ史概観(5)：神帝アウグストゥスとローマ帝国 第7回 ローマ史小テスト、ラテン文学史の時代区分 第8回 カトウツルスのカルミナー—憎んでいながらなお恋しとはどうしたわけか？ 第9回 ウェルギリウス『アエネーイス』—建国の英雄アエネーアース、ディードーの悲恋、男はつらい 第10回 オウィディウス『変身物語』（愛と変身のギリシア・ローマ神話）(1) 第11回 『変身物語』（2） 第12回 『変身物語』（3） 第13回 『変身物語』（4） 第14回 『変身物語』（5） 第15回 まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって教科書を読むとともに、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト20%、期末テスト50%						
教科書	『ローマの歴史』（中公文庫）改版 モンタネッリ著、藤沢道郎訳 ISBN4-7907-0432-7						
参考書	授業時に指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	西洋古典入門IIB (ラテン語)						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ラテン語初歩—「ラテン語」とはどんな言葉か？						
授業の概要	ラテン語は古代ローマ人の言語であるが、長く西欧の学問と文化の骨格を担う言語として用いられてきた。今日でもバチカンの公用語である。英米語の語彙の半分はラテン語からできているだけでなく、フランス語、イタリア語、スペイン語などは民衆語化したラテン語の直接の子孫である。この授業では、西欧の歴史や文学に興味をもつ人だけでなく、英語やフランス語、さらには言語そのものを深く知りたいと望む人が、ラテン語とはどのような言語かを知って役立てることができるように、基本的な文法と簡単な文章を学ぶ。						
到達目標	ラテン語を声に出して読み、名詞や動詞のごく基本的な変化を学び、その範囲で簡単な文章が理解できるようになること。						
授業計画	第1回 ラテン語とはどのような言葉か？ 第2回 文字と発音(1) 第3回 文字と発音(2) 第4回 名詞の変化—第1変化名詞と第2変化名詞 第5回 形容詞の変化—第1・2変化形容詞 第6回 動詞の変化(1)—直説法・能動相・現在人称変化、動詞の4種類と不定法 第7回 動詞の変化(2)—未完了過去と未来の人称変化 第8回 動詞の変化(3)—SUMとPOSSUM 第9回 前置詞、副詞、接続詞 第10回 動詞の変化(4)—受動相の現在・未完了過去・未来 第11回 第3変化の名詞と形容詞 第12回 簡単な文章を読む(1) 第13回 簡単な文章を読む(2) 第14回 簡単な文章を読む(3) 第15回 まとめと展望、テスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって教科書を読み、習ったラテン語の意味や変化形がしっかり頭に入るように練習すること。						
授業方法	教科書とプリントを用いながら講義する。受講者が発音から文法事項・変化のひとつひとつをきちんと理解し、記憶することを前提に、適宜ラテン文の訳読を宿題として課す。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加、課題への取り組みなど平常点50%、筆記テスト50%で評価する。						
教科書	『はじめてのラテン語』(講談社現代新書) 大西英文著 ISBN4-06-149353-1						
参考書	授業時に紹介する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対主義 2. 市民革命（イギリス革命、アメリカ独立革命） 3. 市民革命（フランス革命） 4. ウィーン体制 5. 諸国民の春 6. イタリアとドイツの統一 7. 帝国主義 8. 第1次世界大戦とロシア革命 9. ヴェルサイユ体制 10. 世界恐慌とナチスの台頭 10. 第2次世界大戦 11. 冷戦 13. ベトナムとアフガニスタン 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。適宜、時事問題に関するプリントを用いて解説を加える。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対主義 2. 市民革命（1） 3. 市民革命（2） 4. ウィーン体制 5. 諸国民の春 6. イタリアとドイツの統一 7. 帝国主義 8. 第1次世界大戦とロシア革命 9. ヴェルサイユ体制 10. 世界恐慌とナチスの台頭 10. 第2次世界大戦 11. 冷戦 13. ベトナムとアフガニスタン 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。適宜、時事問題に関するプリントを用いて解説を加える。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりすることは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体どこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの意見をまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 知覚の統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第5講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～リラックスをためよう～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	授業参加態度30%，試験70%						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないもので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	第1回 授業の進め方、寓話について 第2回 ペロー童話集 第3回 グリム童話集 第4回 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教：レッシング『賢者ナータン』 第5回 目玉をめぐる怪奇な世界：E.T.A. ホフマン『砂男』 第6回 死体の寄せ集め：シェリー『フランケンシュタイン』 第7回 本を書く猫：E.T.A. ホフマン『牡猫ムルの人生観』 第8回 上流人を作る：ショー『ピグマリオン』 第9回 得体のしれない虫：カフカ『変身』 第10回 泥人形：マイリンク『ゴーレム』 第11回 賢い猿：カフカ『アカデミーの報告』 第12回 ロボットの登場：チャベック『R.U.R.（ロボット）』 第13回 全体主義：オーウェル『動物農場』 第14回 全体主義の続き：オーウェル『一九八四年』 第15回 ポストモダンの未来像：ディック『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』、小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業でとりあげる作品を読んで、授業のときの印象と比較考察しましょう。それを感想文として提出すれば平常点に加点します。参考図書のいずれか一冊に目を通すと、よい予習・復習となります。						
授業方法	講義。講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	感想（ほぼ毎回）90%、小テスト10% 各作品ごとに、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何かを学び得たかどうかを評価基準に平常点を付ける。平常点を補うために感想文を提出してもよい。最終回に初歩的理解を確認する小テストを実施する。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653 ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないもので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	第1回 授業の進め方、女性の立場の変遷 第2回 天才学者と才媛：アベラールとエロイーズの往復書簡 第3回 友の許嫁：ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』 第4回 謎に満ちた少女：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』 第5回 家庭教師：ブロンテ『ジェイン・エア』 第6回 身を持ち崩す人妻：フローベール『ボヴァリー夫人』 第7回 女神：マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』 第8回 悪女：ワイルド『サロメ』 第9回 妖婦：ヴェーデキント『地霊』、『パンドラの箱』 第10回 引き取られた孤児：『赤毛のアン』 第11回 作家になることを命じられた孤児：ウェブスター『あしながおじさん』 第12回 モダンガール：コイン『人工シルクの女の子』 第13回 強い母：プレヒト『肝っ玉母さん』 第14回 未熟な少女：ナボコフ『ロリータ』 第15回 アメリカ：ナボコフ『ロリータ』続き、小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業でとりあげる作品を読んで、授業のときの印象と比較考察しましょう。それを感想文として提出すれば平常点に加点します。参考図書のうちいずれか一冊に目を通すと、よい予習・復習となります。						
授業方法	講義。講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	感想（ほぼ毎回）90%、小テスト10% 各作品ごとに、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何かを学び得たかどうかを評価基準に平常点を付ける。平常点を補うために感想文を提出してもよい。最終回に初歩的理解を確認する小テストを実施する。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653 ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	田中 良晴						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	環境問題と人間						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されています。それらを理解し考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題と取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察します。						
到達目標	講義のみならず質疑応答を取り入れ、それを講義に反映させることにより、環境問題に関する広い分野の基礎知識習得の他、書籍・マスコミ・インターネットの莫大な情報を俯瞰でき、偏りのない多面的な見方・考え方が身につけられるようになることを目指します。						
授業計画	第1回 環境科学のための化学（オリエンテーション、環境問題概要も） 第2回 環境科学のための生物学－原子・分子を中心に 第3回 環境科学のための生物学－自然システムを中心に 第4回 環境科学のための地学・物理学 第5回 個別の問題－温暖化 第6回 個別の問題－酸性雨 第7回 個別の問題－オゾンホール 第8回 個別の問題－バイオテクノロジー等 第9回 個別の問題－環境ホルモン、中間試験第10回 個別の問題－電磁波（放射線以外、紫外線、マイクロ波等） 第11回 個別の問題－放射線と環境、放射線科学の基礎、放射線や放射性物質の種類、単位、有用性と有害性 第12回 個別の問題－放射線と生物特に人間とのかかわり、チェルノブイリ・福島原発事故、核兵器 第13回 人間の病気と環境 第14回 まとめ－東洋思想と環境問題、理想的な社会・地球はありうるのか？ 第15回 質疑・討論と筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：各授業項目の前までに、関連事項に関する書籍・新聞等を読んで下さい。 授業後学習：予習したことや講義内容をレポート用紙にまとめる癖をつけてください。それにより理解力が深まり、多面的な見方・考え方や批評精神も養えるはずです。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト・中間テスト30点、平常点（出席数および授業態度）30点、筆記試験40点						
教科書	特に指定無し。						
参考書	授業時に提示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日仏比較文化A						
担当教員	川口 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	フランスの文化やフランス人のものの見方について色々な角度から接近し、理解を深めることを目指す。同時に日本の文化や日本人のものの見方に関して調査し、フランスの場合と比較する。その中で日本を改めて見直す機会も持つことを希望している。また、フランスの最新ニュースも紹介し、それを通して現代社会が抱える問題についても考察する。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができる。また、「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめ、発表することができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに：アンケート 第2回 フランスの地理 第3回 日本の地理 第4回 フランスの歴史1 古代～近世 第5回 日本の歴史1 古代～近世 第6回 フランスの歴史2 近代～現代 第7回 日本の歴史2 近世～現代 第8回 両国の歴史を比較する 第9回 フランスの祝日 第10回 日本の祝日 第11回 フランスにおけるカップルのありかた 第12回 日本におけるカップルのありかた 第13回 フランスで働く外国人、難民受け入れ 第14回 日本で働く外国人、難民受け入れ 第15回 多文化共生社会について考える						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日本についてデータ収集をしてきてください。授業中に発表してもらいます。（目安とする学習時間：毎週1時間） 授業後学習：各テーマごとに、特に関心を抱いた内容に関してさらに調査を続けてください。それをまとめて、レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力を養っていきます。（目安とする学習時間：毎週1時間）						
授業方法	講義と演習（発表、ワークシート作成など）を交互に行います。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（各テーマに関するレポート25%、授業中発表20%、毎回の小レポートおよびワークシート5%） 学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日仏比較文化B						
担当教員	川口 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	日仏比較文化Aから引き続き、フランスと日本の比較を通して日仏両文化の理解を同時に深めていく。履修者は各自、日仏比較に関するテーマを一つ選んで授業中に発表し、最後にレポートとしてまとめることを目指す。発表者以外の出席者も全員、必ずコメント求められるので、しっかりと発表を聞いて、自分の考えを言葉で表現するように努めること。発表と並行して、日本から見たフランス、フランスから見た日本、および両国の現代社会が抱える問題についての考察も行う。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができる。「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるとという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめていくことができるようになる。他の人々の発表に対してコメントする、発表者はそれに対して答えることで、より自分の考えを深め、言葉で表現できるようにもなる。						
授業計画	第1回 はじめに：発表日程決定とグループ発表準備 第2回 グループ発表：日本の雑誌に見るパリ 第3回 日本で紹介されるパリ、フランス 第4回 付加価値税と日本の消費税 第5回 研究発表＋討論（1）教育制度 第6回 研究発表＋討論（2）結婚 第7回 研究発表＋討論（3）食事のマナー 第8回 研究発表＋討論（4）菓子の歴史 第9回 研究発表＋討論（5）朝食 第10回 研究発表＋討論（6）住居 第11回 研究発表＋討論（7）公共交通 第12回 研究発表＋討論（8）ディズニーランド 第13回 フランス人と日本人の休み方 第14回 フランス人と日本人の価値観 第15回 フランスから見た日本						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表に備えて、日仏両方のデータを収集し、まとめてきてください（目安とする学習時間：合計10時間）。講義に関する事前学習としては配布資料を読み、重要な点をまとめてきてください（目安とする学習時間：合計5時間）。 授業後学習：発表後は授業中討論およびコメントシートで出てきた質問に答えながら、両文化の比較をさらに進めてください。それをまとめて、学期末レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力も養っていきます（目安とする学習時間：合計10時間）。講義の回の事後学習としてはワークシートを完成させ、自分の意見をまとめて下さい（目安とする学習時間：合計5時間）。						
授業方法	演習（研究発表と討論、グループ作業、ワークシート作成とディスカッション等）を中心に、講義の時間も取りながら進めます。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（研究発表25%、授業内作業〔討論での発言・コメントシート・グループ作業・ワークシート作成等〕20%、毎回の小レポート5%） 学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の歴史						
担当教員	李 芝映						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	原始から現代にいたる日本歴史の概説						
授業の概要	この授業では、原始から現代まで、日本の歴史を学びます。各時代の社会・政治システムがいかに変わっていったのかを概観します。そのうえ、昭和時代の教科書と平成時代の教科書を比較します。何がどのように変わってきたのかを確認し、その意味について考えてみます。歴史と歴史叙述の関係を理解し、それを通じて日本の歴史についての理解を深めていきます。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本史に関する知識を習得する。 2. 日本史の教科書がどのような知識や仕組みによって書かれているのかを理解する。 3. 歴史の理解を通じて現代に対する理解を深める。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション：歴史と歴史教科書 第2回 原始時代：人類の出現 第3回 古代時代：古代国家の成立 第4回 中世時代①：荘園経済 第5回 中世時代②：武家の登場 第6回 戦国時代 第7回 江戸時代①：江戸幕府の成立 第8回 江戸時代②：政治システム 第9回 江戸時代③：経済システム 第10回 幕末 第11回 明治時代①：近代国家の成立 第12回 明治時代②：経済・社会システム 第13回 大正時代 第14回 昭和時代①：戦争と社会 第15回 昭和時代②：戦後の政治と社会						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の授業で参考資料を紹介し、各自の関心に応じて選んで自習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(40%)、期末テスト(60%)						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						
参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介し、						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本史A						
担当教員	李 芝映						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の教育史－歴史から教育を問い直す						
授業の概要	今まで私たちが通ってきた「学校」はいつできたのか。人々はなぜ学んできたのか。学ぶべきことをだれが決めたのか。この授業では、このような教育に関するあらゆる問いを、日本の歴史を通して考えてみます。古代から中世を経て、「教育の爆発の時代」といわれる近世を中心として、いかなることが学ばれたのか、どのように学ばれたのかを概観します。そして、現在の教育制度の原型と見られる明治時代の教育制度が、何を目的として、どう作られてきたのかをみます。これらを通して、現代の教育を考え直すことを試みます。						
到達目標	1. 日本教育史に関する知識をえて、理解を深める。 2. 社会における教育の意味・役割を理解する。 3. 歴史的な視点から、新たな教育の可能性を模索する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：教育を歴史の観点から問い直すことの意味 第2回 古代の教育 第3回 中世の教育 第4回 江戸時代の教育①：「教育爆発」の時代 第5回 江戸時代の教育②：民衆の教育 第6回 江戸時代の教育③：武士の教育 第7回 江戸時代の教育④：教育と政治 第8回 江戸時代の教育⑤：教育と日常 第9回 明治時代の教育①：近代教育の誕生 第10回 明治時代の教育②：教育勅語の時代 第11回 大正時代の教育：大正自由教育 第12回 昭和時代の教育①：戦時中の教育 第13回 昭和時代の教育②：戦後の教育改革 第14回 昭和時代の教育③：高度経済成長と教育 第15回 現代教育：現在私たちにとって教育とは何か						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の授業で参考資料を紹介しします。各自の関心に応じて選んで自習してください。その際には、期末レポートのテーマを念頭に置きながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(30%)、期末レポート(70%)						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						
参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介しします。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本史B						
担当教員	李 芝映						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	江戸時代の書物史－江戸時代の人々は何を考え、何を書き残したのか						
授業の概要	本が商業的な意図を持って本格的に出版され始めたのは江戸時代です。それは本を書く人(著者)がいて、本を読む人(読者)が存在していたからこそできたことです。とすれば、江戸時代の人々はなぜ本を読んだのでしょうか。またはなぜ本を書いたのでしょうか。この授業では、本というメディアを通じて、江戸時代の人々の「知」のあり方を概観します。						
到達目標	1. 江戸時代に関する知識を習得する。 2. 江戸時代の社会像を理解する。 3. 江戸時代の文献が読める。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：本の誕生 第2回 江戸時代の概観①：商業出版の誕生 第3回 江戸時代の概観②：江戸時代の教育文化 第4回 本はどう作られたのか 第5回 誰が本を作り、販売したのか 第6回 江戸時代の蔵書文化 第7回 本はなぜ読まれたのか①：「知」と道德 第8回 本はなぜ読まれたのか②：「知」と政治 第9回 本はなぜ読まれたのか③：「知」と経済 第10回 本はなぜ読まれたのか④：「知」と教養 第11回 本はなぜ読まれたのか⑤：「知」と医療 第12回 本はなぜ読まれたのか⑥：地域意識の生成 第13回 広がる「知」のネットワーク 第14回 江戸時代の女性と書物①：女性の教育環境 第15回 江戸時代の女性と書物②：女性の教養						
授業外における学習(準備学習の内容)	各回の授業で参考資料を紹介し、各自の関心に依りて選んで自習してください。その際には、期末レポートのテーマを念頭に置きながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(30%)、期末レポート(70%)						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						
参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介し、紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学作品を読むことを通して、現代に通じている日本の文化の独自性を考察する。						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを説明できる。 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを説明できる。 世界的な視点から見た日本文化の独自性とは何かについて、考えを述べるができる。						
授業計画	第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学 第2回：漢字で日本語を表すこと 1－古事記・日本書紀 第3回：漢字で日本語を表すこと 2－万葉集 第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図 第5回：七五のリズム 1－万葉集・古今集・今様 第6回：暦と季節感 1－古今集・新古今集の春夏 第7回：暦と季節感 2－古今集・新古今集の秋冬 第8回：恋の発端 1－伊勢物語 第9回：恋の発端 2－源氏物語 第10回：日記という文化 1－漢文日記・土佐日記 第11回：日記という文化 2－蜻蛉日記・紫式部日記 第12回：記録する意志－枕草子・方丈記 第13回：日本文学史概観Ⅰ 第14回：日本文学史概観Ⅱ 第15回：まとめ－世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容や自分なりの疑問点をまとめておく。 また、次回までに調べてくること（辞書を引く等）を授業中に指示する。 それを次の授業のはじめに書いて提出してもらう。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめや、ワークシート、小テスト等を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめ等の提出、小テスト）60% 期末レポート40%						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学作品を読むことを通して、現代に通じている日本の文化の独自性を考察する。						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを説明できる。 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを説明できる。 世界的な視点から見た日本文化の独自性とは何かについて、考えを述べることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学 第2回：漢字で日本語を表すこと 1－古事記・日本書紀 第3回：漢字で日本語を表すこと 2－万葉集 第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図 第5回：七五のリズム 1－万葉集・古今集・今様 第6回：暦と季節感 1－古今集・新古今集の春夏 第7回：暦と季節感 2－古今集・新古今集の秋冬 第8回：恋の発端 1－伊勢物語 第9回：恋の発端 2－源氏物語 第10回：日記という文化 1－漢文日記・土佐日記 第11回：日記という文化 2－蜻蛉日記・紫式部日記 第12回：記録する意志－枕草子・方丈記 第13回：日本文学史概観Ⅰ 第14回：日本文学史概観Ⅱ 第15回：まとめ－世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容や自分なりの疑問点をまとめておく。 また、次回までに調べてくること（辞書を引く等）を授業中に指示する。 それを次の授業のはじめに書いて提出してもらう。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめや、ワークシート、小テスト等を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめ等の提出、小テスト）60% 期末レポート40%						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な作品を生み出して来た。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人歌集』・『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』・『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について理解しやすいように、複製を提示したり、パソコンやDVDの画像をスクリーンに映したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 国宝『源氏物語絵巻』 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 『平家納経』などの装飾経 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や装束 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントも併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	<p>平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。</p> <p>本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>平安時代の貴族文化についての知識を身に付ける。</p> <p>日本文化の本質について理解する。</p>						
授業計画	<p>第1回 王朝人の住まい</p> <p>第2回 男性の装束</p> <p>第3回 女性の装束</p> <p>第4回 装い(化粧・整髪など)</p> <p>第5回 貴族の食事</p> <p>第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え)</p> <p>第7回 貴族の宮仕え(官位官職)</p> <p>第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など)</p> <p>第9回 恋愛と結婚</p> <p>第10回 算賀・葬送</p> <p>第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など)</p> <p>第12回 祭礼(賀茂の祭など)</p> <p>第13回 貴族の教養</p> <p>第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>興味を持った事柄について、自身でも深め、探究する。</p> <p>プリントに引用する古典文学が読解できるよう復習する。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(90%)と平常点(10%)						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶC						
担当教員	三木 麻子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学における旅						
授業の概要	古代人にとって旅とはどのようなものであったか。交通手段ひとつをとってもさまざまな困難が付きまとう時代に、人々はなぜ、旅に出たのか。目的や意義を考えつつ、旅の様相を読み解く。						
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世の旅の様相を理解し、その意義について述べることができる。						
授業計画	第1回 万葉人の旅 第2回 菅原道真・大宰府への左遷の旅 第3回 『伊勢物語』における「東下り」 第4回 『土佐日記』の船旅 第5回 『更級日記』の旅（任国からの帰郷） 第6回 王朝人の寺社参詣の旅－初瀬詣－ 第7回 能因・西行と歌枕 第8回 平家の都落ちと『平家物語』 第9回 『うたた寝』と『十六夜日記』の旅 第10回 『とはすがたり』－中世の紀行文－ 第11回 能における旅 第12回 芭蕉の『奥の細道』の旅 第13回 浄瑠璃・歌舞伎における道行文 第14回 女の旅日記『東路日記』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付するプリントの作品例が理解できるよう、予習・復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（70%）、小レポート（20%）、平常点（10%）						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文学史A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学の歴史						
授業の概要	日本文学の歴史を考える。「日本文学史A」では主として古典文学として扱われているものの歴史を追う。日本の成り立ち、先人の培ってきた遺産、現代の古典文学需要のありさまを多角的に学ぶ。						
到達目標	日本文学の歴史について考えることを通じて、現在に生きる古典文学への理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本について 第3回 文学史を考えること 第4回 上代文学 第5回 口承文学 第6回 中古文学 第7回 貴族の文学 第8回 中世文学 第9回 武士の文学 第10回 動乱の文学 第11回 近世文学 第12回 町人の文学 第13回 幕末の文学 第14回 現在に生きる古典・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	視野を広く持ち、古典文学作品を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	児玉幸多編『日本史年表・地図』吉川弘文館 ISBN 9784642095365						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『日本近代文学年表』鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人間関係論						
担当教員	荻原 祐二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学から考える人間関係						
授業の概要	人は家族や恋人、友人など様々な人と関係を持ち、日々コミュニケーションを行っている。そのような人間関係を結んだり、維持したりしていく背景には様々な「こころ」の働きが関わっている。本講義では社会心理学的な視点から、人と人とのコミュニケーションがどのような「こころ」の仕組みに支えられているのかについて解説する。						
到達目標	①人間関係にまつわる社会心理学的な知見を説明できるようになる。 ②自分の身の回りの人間関係を、社会心理学的な視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：人間関係をどのように研究するか 第2回 自己呈示・自己開示 第3回 親密な人間関係 第4回 対人魅力 第5回 協力行動 第6回 信頼 第7回 他者理解①：他者との感情の共有 第8回 他者理解②：マインドリーディング 第9回 他者への思いやり 第10回 ソーシャル・ネットワーク①：社会的排斥 第11回 ソーシャル・ネットワーク②：ソーシャル・サポート 第12回 集団意思決定 第13回 リーダーシップ 第14回 マスメディア・インターネット 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。						
授業方法	講義を中心に、ときに心理学調査を体験していただきます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	ミニレポート30%・試験70%とします。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学 (New Liberal Arts Selection) 有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 亀田 達也・村田 光二（著）「複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間— 改訂版」 有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12418-9 3. 北村 英哉・大坪 庸介（著）「進化と感情から解き明かす社会心理学」 有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12466-0 4. 北村 英哉・内田 由紀子（編）「社会心理学概論」 ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1059-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の認知の特徴やしぐみについて理解する。						
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり、対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに、よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～色の不思議～ 第4講 知覚3 ～三次元の世界～ 第5講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第6講 記憶2 ～感覚記憶と短期記憶～ 第7講 記憶3 ～長期記憶～ 第8講 問題解決 ～サバイバルゲーム～ 第9講 心の健康と認知1 ～ストレスと認知～ 第10講 心の健康と認知2 ～うつと認知～ 第11講 心の健康と認知3 ～認知療法～ 第12講 社会的認知1 ～アサーション～ 第13講 社会的認知2 ～他者認知～ 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	授業参加態度30%、試験70%						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる。 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べることができる。 3) 神戸のファッション文化を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技IIA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう ～ コラールとグレゴリオ聖歌から～						
授業の概要	チャペルの大オルガンを用いて、パイプオルガン演奏の基礎的な実習を行う。レパートリーとしては、コラールを題材に書かれたドイツバロックの平易な小品、さらにグレゴリオ聖歌を題材に書かれたフランス古典の小品を取り上げる。曲に取り組む中で、パイプオルガンのタッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法といった基礎的な奏法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パイプオルガンを演奏するための基礎的なテクニックを身につける。 2. 聖歌と教会歴について、楽曲を通して体感する。 3. コラールに基づく小品（ドイツバロック）を演奏できるようになる。 4. グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏できるようになる。 5. 松蔭のオルガンについて熟知し、様々なパイプの効果的な使い方を知る。 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オルガン奏法の基礎①（タッチ・楽器へのアプローチの確認） 第3回 オルガン奏法の基礎②（レジストレーション） 第4回 オルガン奏法の基礎③（ペダル）</p> <p>第5回 楽曲への取り組み①（待降節のコラール） 第6回 楽曲への取り組み②（クリスマスのコラール） 第7回 楽曲への取り組み③（受難のコラール） 第8回 楽曲への取り組み④（イースターのコラール） 第9回 楽曲への取り組み⑤（ペンテコステのコラール） *主に「パイプオルガン入門B」において紹介したコラールに基づく小品を中心に、教会歴に沿ったオルガン作品の中から個人のレベルにあった曲を数曲選び、より完成した演奏に向けて取り組む。</p> <p>第10回 楽曲への取り組み⑥（プランジュ） 第11回 楽曲への取り組み⑦（グランジュ） 第12回 楽曲への取り組み⑧（コルネ） *グレゴリオ聖歌に基づく小品を取り上げ、松蔭のフランス様式のオルガンに相応しいレジストレーションを知る。</p> <p>第13回 クラス内発表会での演奏の準備①（レジストレーションの工夫） 第14回 クラス内発表会での演奏の準備②（音を遠くで客観的に捉える訓練） 第15回 クラス内発表会とその講評 *学期中に取り組んだ楽曲の中から、コラールに基づく小品とグレゴリオ聖歌に基づく小品を1曲ずつ選び、演奏する。レジストレーションも各自の責任でできるように準備する。終了後は、お互いの演奏にコメントしあう時間を持ち、他の人の演奏を客観的に聴き、批評することを経験する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学内のオルガンでの個人練習						
授業方法	グループレッスン形式による実技						
評価基準と評価方法	平常点60%、実技試験（クラス内発表会）40%						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に紹介する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本聖公会 聖歌集 ・ルター派 教会讃美歌 ・「クラヴィス」大塚直哉編 						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	伊藤 純子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する						
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」パイプオルガン入門A B、パイプオルガン実技Aでの学びの集大成として、大オルガンでコラール変奏曲を演奏する。その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについての学びと、コラールの歌唱も行う。						
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。 ⑤コラール変奏曲演奏のための、大オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。 ⑥コラール変奏曲を、大オルガンで美しく演奏できるようになる。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方）</p> <p>第3回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方）</p> <p>第4回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方）</p> <p>第5回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方）</p> <p>第6回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び</p> <p>第7回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏</p> <p>第8回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり 聖歌歌唱</p> <p>第9回：コラール変奏曲の曲の構成について</p> <p>第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定</p> <p>第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫</p> <p>第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫</p> <p>第13回：コラール変奏曲演奏の完成</p> <p>第14回：試験準備</p> <p>第15回：試験 <実技試験>大オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 <筆記試験>講義内容について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	大オルガンの個人練習						
授業方法	解説、実習						
評価基準と評価方法	平常点60%、レポート20%、試験20%						
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）						
参考書	日本聖公会 聖歌集						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀にかけての文芸の流れ						
授業の概要	20世紀初頭に始まった文学（小説）の変貌が、絵画、音楽などの諸ジャンルの変貌と連動したものであったことを、有名作品を解説しながら跡付けて行く。						
到達目標	19世紀から20世紀にかけての文芸ジャンル変貌の大きな流れを説明することができる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、授業計画の説明 2. 19世紀小説の特徴 (1) バルザック 3. (2) 自然主義の小説 4. 19世紀小説への疑問 (1) 全能の作者の問題 5. (2) アンドレ・ジッドの『贖金つかい』 6. 20世紀イギリスの小説 7. 19世紀末のヨーロッパ社会と音楽 8. 第1次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 9. 第2次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 10. キュービズムと現代絵画の流れ概説 11. 第2次世界大戦以前の映画 12. ヌーヴェルヴァーグ映画の革新 13. ヌーヴェルヴァーグとフランス文学 14. 現代のポップカルチャー 15. まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点56%、テスト44%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代絵画と禅思想の関係を探る						
授業の概要	フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの『ベーコン論』を読み解きながら、禅思想との関連を調べて行く。						
到達目標	現代絵画の一つの特徴が、禅の悟りの概念と同じ特徴を持っていることが説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、授業内容の説明 2. フランシス・ベーコンについて 3. ドゥルーズの『ベーコン論』 (1) 円 4. 同 (2) 闘技 5. 同 (3) 身体 6. 同 (4) 力 7. 禅について 8. 禅と日本文化 (1) 死生観 9. 同 (2) 自然観 10. 禅の悟りについて 12. 道元の『正法眼蔵』 13. ベーコンの時間と「悟り」の時間 14. 現代絵画と東洋文化がもつ時間性 15. まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業時に指示する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点56%、テスト44%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IIA						
担当教員	柘井 智英						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを理解し、また映画に登場する女性の存在に着目し、その社会の中における女性の立場を考えてみましょう。鑑賞する映画作品は、アジア、ヨーロッパ、そして南米から選びました。						
到達目標	映画をストーリーだけで語るのではなく、その作品にあらわれる現代社会や女性の立場などの映像リテラシーを読み解く能力を高める。						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『さらば、わが愛/霸王別姫』の背景（第二次大戦前から文化大革命を含めた20世紀の中国）解説 3回 『さらば、わが愛/霸王別姫』鑑賞 4回 『さらば、わが愛/霸王別姫』観賞 5回 『さらば、わが愛/霸王別姫』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『ライフ・イズ・ビューティフル』の背景（イタリアの第二次世界大戦とユダヤ人の問題）解説 6回 『ライフ・イズ・ビューティフル』観賞 7回 『ライフ・イズ・ビューティフル』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『トム・ボーイ』の背景（現代フランスや日本のセクシャリティと性同一障害について）解説 9回 『トム・ボーイ』観賞 10回 『トム・ボーイ』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『瞳の奥の秘密』の背景（1970年代のアルゼンチンの政治的、社会的背景）解説 12回 『瞳の奥の秘密』鑑賞 13回 『瞳に奥の秘密』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 まとめ：それぞれの作品における女性について 15回 まとめ：政治的、社会的、そして文化的背景と映画作品の関連について						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	講義と映像観賞、そしてディスカッションの時間も設けて理解を深める。						
評価基準と評価方法	出席と映画鑑賞後の感想文50%、レポート50%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	西川 純司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	映画鑑賞を通して、現代社会におけるさまざまな問題を深く理解することを目指します。とりわけ、実存や文化、差別、メディアを主題とした映画を取り上げます。授業では、まず映画で描かれる社会の背景を解説したうえで、映画を鑑賞します。鑑賞後、関連する文芸作品を紹介しながら、ディスカッションを通して内容の理解を深めたいと思います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるさまざまな問題を理解するための基礎的な知識を習得します。 ・映画を批評し、内容について他者と討論する力が身につきます。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 映画批評とは：映画に対するアプローチ 3 実存について考える（1）：現代社会における実存の問題についての解説 4 実存について考える（2）：『桐島、部活やめるってよ』鑑賞 5 実存について考える（3）：ディスカッション・小レポート 6 文化について考える（1）：自文化中心主義／文化相対主義についての解説 7 文化について考える（2）：『パリ20区、僕らのクラス』鑑賞 8 文化について考える（3）：ディスカッション・小レポート 9 差別について考える（1）：アメリカにおける偏見・差別問題についての解説 10 差別について考える（2）：『ズートピア』鑑賞 11 差別について考える（3）：ディスカッション・小レポート 12 メディアについて考える（1）：日本におけるマスコミ報道についての解説 13 メディアについて考える（2）：『FAKE』鑑賞 14 メディアについて考える（3）：ディスカッション・小レポート 15 まとめ <p>※鑑賞する作品は変更する可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常的に新聞やニュースに触れることで、授業の予習・復習をしてもらいたいと思います。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションをする機会も設けます。						
評価基準と評価方法	小レポート 40%（10点×4回）、平常点（ディスカッションへの参加や出席）60%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	被服整理学とは、被服の管理に関する学問である。取り扱う内容は、日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまで及ぶ。本講義では、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。						
到達目標	被服の洗浄理論を説明することができる。 素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤 第3回：洗剤の成分と洗浄作用（1）界面活性剤の性質 第4回：洗剤の成分と洗浄作用（2）界面活性剤の種類 第5回：洗剤の成分と洗浄作用（3）配合剤の種類と洗浄作用 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗濯機、家庭洗濯 第8回：洗浄力・機械作用の試験法と評価 第9回：漂白剤と増白、しみ抜き 第10回：糊つけと仕上げ、衣服の保管 第11回：商業洗濯、取扱い絵表示 第12回：まとめと期末試験 第13回：学外研修事前学習 第14回：学外研修1 第15回：学外研修2 小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、DVD、学外研修（白星社クリーニング※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろうか。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。						
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。 着用目的に合った繊維素材を選択することができる。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維①綿 第3回：天然繊維 植物繊維②麻、他 第4回：天然繊維 動物繊維①絹 第5回：天然繊維 動物繊維②羊毛、獣毛 第6回：皮革、その他の天然繊維 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュプラ・アセテート 第9回：化学繊維 合成繊維①ナイロン、アクリル 第10回：化学繊維 合成繊維②ポリエステル 第11回：化学繊維 合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第12回：化学繊維 無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維、高機能繊維 他 第13回：まとめと期末試験 第14回：試験の復習と最終課題、学外研修の事前学習 第15回：学外研修、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、DVD、学外研修（兵庫県立生活科学センター※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）試験は中間と期末の2回おこなう。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学－概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	美術史A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教西欧を中心に、写真誕生までの美術の歴史を「近代化」、「世俗化」という視点から概観する。						
授業の概要	主としてキリスト教西欧の、写真誕生までの美術をあつかう。ルネサンス期以降緩やかに進行してゆく「世俗化」の動きを、美術の変容をたどることで考察する。美術作品を通じ、その作品の背景となった時代や文化の特徴、作者の抱いていた思想や思惑、他の作品との関連など、様々な要素を読み解くことに親しむ。						
到達目標	「世俗化」へと向かう美術の大きな流れを概観し、一つひとつの美術作品に、その作品が属する時代、社会、文化、思想が深く関わっていることを理解できる。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 キリスト教以前—古代ギリシャ、ローマの美術について— 第3回 古代ギリシャと古代ローマ 第4回 キリスト教の誕生 第5回 ロマネスクとゴシック 第6回 人間中心主義へ 第7回 自然科学と美術 第8回 宗教改革と美術 第9回 カトリックとプロテスタント 第10回 市民階級と美術 第11回 宗教画から世俗画へ 第12回 市民革命と美術 第13回 王侯貴族と市民 第14回 産業革命と美術 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	美術史B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近代から現代にいたる美術の変容とその多様化を、社会的、思想的背景と関連づけてとらえる。						
授業の概要	写真誕生以降の美術が、その存在意義を求めて多様化してゆく過程を概観する。「美術」や「作品」という概念そのものも、様々な解釈により常に揺れ動いてきた。今日の、そして今後のさらに多様化するであろう美術を自分たちなりに読み解き、評価しようとする姿勢を養う。						
到達目標	近代から現代までの美術の変容をたどることで、美術の変化がわたしたちの感性や価値観の変化を反映していることを理解できる。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 写真誕生 第3回 写真が絵画から奪ったもの 第4回 絵画の葛藤1－印象主義の試み－ 第5回 新印象主義・後期印象主義 第6回 絵画の葛藤2－哲学を味方に－ 第7回 キュビズムと未来派 第8回 世界大戦と美術－ダダの目指したこと－ 第9回 夢と現実－シュールレアリスムの政治性－ 第10回 ユートピアを目指して－ロシア・アヴァンギャルドとバウハウスの活動－ 第11回 抽象の果て 第12回 大衆と人気－ポップ・アートという戦略－ 第13回 集積する「物」－大量消費社会とネオ・ダダ－ 第14回 自然と人工 第15回 多様化する美術－本当に「何でもあり」なのか？－						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	美術実技／美術実技A						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	素描の制作実技						
授業の概要	<p>作品を実際に制作することで、創ることの意味を考え、表現することの楽しみを体験し、美術の理解を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、美術表現の骨格である素描の制作をする。事物のあるがままの姿をとらえ、それを平面上に表現するためには、どのような工夫が必要であるか。またそのためにはどのような描画材料が適当であるか。素描の多様性を知ると同時に、対象のとらえ方、「みる」ことの多義性を知る。</p>						
到達目標	<p>素描の制作を通じて、対象を捉える「見る」力、対象を画面に定着させるための「描く」力を身に着けると同時に、創作・鑑賞する感性や能力を養い美術の理解を深めることができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 画材を知る：鉛筆でのウォミングアップ 第3回 模写：名画に学ぶ 第4回 描法1：ハッチング 第5回 観察と表現（1）形とスケール 第6回 観察と表現（2）面でとらえる 第7回 観察と表現（3）明暗とタッチ 第8回 構図と遠近法 第9回 描法2：ぼかし/合評 第10回 植物（1）線とリズム 第11回 植物（2）淡彩 第12回 画材と描法 第13回 クロッキー 第14回 「わたし」の表現 第15回 合評</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>日常生活のなげない時間の合間にでも何かスケッチをして下さい。ものの特徴を捉えることや素描上達に役立ちます。</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	授業へのとりくみ(出席状況等)30%、課題作品70%との総合評価。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	フランス文学I						
担当教員	木谷 吉克						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの20世紀の作家サン=テグジュペリの作品を読んで、サン=テグジュペリのものの見方、考え方、生き方に触れます。						
授業の概要	とりあげる作品は『南方郵便機』『夜間飛行』『人間の大地』『小さな王子さま』で、『夜間飛行』と『小さな王子さま』は作品のすべてを読んでいきます。『人間の大地』は一部のみとりあげて読んでいきます。『南方郵便機』は解説のみです。質問集をあらかじめ渡し、それぞれの質問について授業中に答えていただきます。こちらで作成した質問集が終れば、受講生自身に質問を作成してもらい、それを質問集としてまとめ、その質問に答える形で授業を進めていきます。						
到達目標	文学作品を深く読むことができるようになります。ものごとを新たな目で見つめ直し、これまで考えることのなかったいろいろなことについて改めて考えてゆくことができるようになります。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。サン=テグジュペリとその作品についての概説。</p> <p>第2回：『南方郵便機』までのサン=テグジュペリおよび『南方郵便機』の解説。</p> <p>第3回：『夜間飛行』までのサン=テグジュペリについての解説。『夜間飛行』前半の質問集に沿って、各質問の答えを問うていきます。</p> <p>第4回：『夜間飛行』1章から5章までの質問と答え。</p> <p>第5回：『夜間飛行』6章から10章までの質問と答え。『夜間飛行』後半部の質問を作成してもらいます。</p> <p>第6回：受講生の考えた質問をまじえた質問集を配付し、その質問に沿って授業を進めます。『夜間飛行』11章から15章までの質問と答え。</p> <p>第7回：『夜間飛行』16章から20章までの質問と答え。</p> <p>第8回：『夜間飛行』21章から最後までまでの質問と答え。『夜間飛行』についてのまとめ。</p> <p>第9回：『人間の大地』までのサン=テグジュペリについての解説。</p> <p>第10回：『人間の大地』の2章「僚友たち」についての質問と答え。</p> <p>第11回：『人間の大地』についてのまとめ。</p> <p>第12回：『人間の大地』以降のサン=テグジュペリについての解説。</p> <p>第13回：『小さな王子さま』1章から10章までの質問と答え。</p> <p>第14回：『小さな王子さま』11章から20章（キツネとの出会い）までの質問と答え。</p> <p>第15回：『小さな王子さま』21章から最後（王子さまとの別れ）までの質問と答え。『小さな王子さま』のまとめ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	質問集の質問に対する答えを必ず考えたうえで授業にのぞむことが必要です。また途中から自ら質問を作成していかなければなりませんので、作品を深く読みこみ、少なくとも3つ程度の質問をあらかじめ考えておく必要があります。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	レポート80%、質問への答えと自分で考えてきた質問の内容に10%、出席率10%で最終成績を出します。						
教科書	『夜間飛行』『小さな王子さま』『人間の大地』についてはコピーして配付します。						

参考書	
-----	--

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 在宅所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを [優しき挑戦者たち]」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 在宅所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを [優しき挑戦者たち]」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	西ヨーロッパ中世世界の成立について						
授業の概要	西ヨーロッパ中世世界成立についての諸説を、ピレンヌ理論を中心に検討する。						
到達目標	すでに明らかになったことを暗記するのではなく、通説を批判し新しい歴史像を構築するという歴史学の営みを理解する。 西ヨーロッパ世界の成立について検討することによって、ヨーロッパとは何かについての理解を深める。						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 日本史とヨーロッパ史の時代区分について 第3回 中国史の時代区分について 第4回 ゲルマン民族大移動期の概略 第5回 ピレンヌ理論の概略 第6回 ピレンヌによる民族移動以前の古代世界 第7回 民族移動と古代世界 第8回 イスラム教の成立と発展 第9回 イスラム侵入と地中海商業 第10回 イスラム侵入の西欧における政治的影響 第11回 ピレンヌ批判（デネット・ジュニア） 第12回 ピレンヌ批判（ステューレ・ポーリン） 第13回 ポーリン批判 第14回 古代から中世へ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の世界史の教科書を見直しておくこと。講義に出席する前に前回のノートを見直すこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、出席30%						
教科書	とくに定めない。						
参考書	アンリ・ピレンヌ『ヨーロッパ世界の誕生』（中村宏・佐々木克巳訳）、創文社。 ピレンヌ他『古代から中世へ』（佐々木克巳編訳）、創文社。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学A						
担当教員	中村 博文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）、および期末試験（86%）により評価する。						
教科書	指定しない。毎回の授業で、プリントを配付する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学B						
担当教員	春海 淳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学的立場から、人のこころについての理解を深める。特に、ライフサイクルの視点から各発達段階における発達課題の特徴やそれと関連して生じやすい問題をとりあげ、その理解と対応について学習する。						
到達目標	各発達段階の心理学的特徴や生じやすい心理学的問題について理解し、説明することができる。						
授業計画	第1回 この授業についてのオリエンテーション 第2回 乳幼児期の心理学的特徴 (1) 第3回 乳幼児期の心理学的特徴 (2) 第4回 乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第5回 児童期の心理学的特徴 第6回 児童期に生じやすい心理学的問題 第7回 思春期の心理学的特徴 第8回 思春期に生じやすい心理学的問題 第9回 青年期の心理学的特徴 第10回 青年期に生じやすい心理学的問題 第11回 成人期の心理学的特徴 第12回 成人期に生じやすい心理学的問題 第13回 老年期の心理学的特徴 第14回 老年期に生じやすい心理学的問題 第15回 まとめと到達度確認 (試験)						
授業外における学習 (準備学習の内容)	自分自身や生活の中ですれ違う人々に目を向け、こころの動きに関心を持つことが望まれる。						
授業方法	パワーポイント中心の講義からなるが、映像資料を使って実際に考えることも多い。						
評価基準と評価方法	試験 (70%) と平常点 (質問など授業への積極的参加) (30%) を総合的に評価する。						
教科書	必要に応じて適宜、プリントや本、ビデオ等学習材料を用意する。						
参考書	授業中に紹介する。						